

支える人を支える 京都の福祉

2023
1月号
no.605

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



●今月の「ふくしびと」は安田珠子さん ▼11ページ

●京都府社会福祉協議会会長 年頭挨拶

京都府知事 年頭挨拶 ▼2ページ

もえくさ



T.T

新年あけましておめでとうございます。

今年(卯年)は、わが家には3年前から飼いはじめたウサギがいる。今年(卯年)は縁起のいい年になりそうだ。部屋の中をぴよぴよ歩き回り、撫でてほしいときはすり寄ってくる姿にいつも癒されている。

ウサギで思い出すのは随分と昔にテレビのドラマで観た『ガラスのうさぎ』だ。「戦争の恐ろしさと平和の尊さを教えた」と児童文学作家の高木敏子氏が自らの体験をつづった原作をドラマ化したものだった。平和あつての福祉。世界が平和で穏やかな一年になることを願う。

ウサギは躍進の象徴とも言われている。団塊の世代が75歳を迎える2025年まであと2年。府社協の第5次中期計画の計画期間も同じくあと2年だ。少子高齢社会において社会福祉の果たす役割はますます大きくなる。府社協の基本理念である「つながりをいかに、だれもが尊厳をもっていきることが出来る社会をつくる」の実現に向け、ウサギにあやかっって躍進する一年にしたい。

今年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

誰もが夢や希望を持てる 地域共生社会の実現に向けて

社会福祉法人 京都府社会福祉協議会
会長 小畑 英明



新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、昨年も福祉・介護サービスの提供や各種相談・支援など地域福祉の最前線で日夜御奮闘いただいたことに心からの感謝と敬意を表します。

さて、コロナ感染とウクライナ戦争や円安などによる物価高騰が生活に困窮する方々にとりわけ深刻な影響を及ぼし、生活不安、格差の拡大、孤立・孤独などの問題が拡がり、人と人との絆や交流、地域のつながり、支え合いが一層大切になっています。こうした問題・課題に 대응していくのが社会福祉活動であり、その役割はますます重要になっていると考えます。

しかしその一方で、地域のふれあいや交流に制約をもたらし、社会福祉法人や

福祉施設の経営を直撃するなど社会福祉活動を取り巻く環境が大変厳しいものになっているのも事実であります。

こうした中であって、京都府社会福祉協議会は第5次中期計画で掲げる「つながりをいかして、だれもが尊厳をもっていることができる社会」を目指し、生活が困難な方へのアウトリーチ型のフォローアップ支援、福祉を支える人と組織への支援、こども・家庭への支援、SDGsに向けた事業展開などに積極的に取り組む、誰一人取り残すことなく皆が豊かさや生きがいを感じることをできる社会の構築を目指して今年も活動を進めていきます。

又、こうした活動を生活や福祉の課題が深刻化・複雑化する中で進めていくにあたっては、今まで以上に行政や市町村

社協、民生児童委員、社会福祉施設、福祉関係団体、ボランティアを始め様々な分野の方々との連携を進め、より力強いオール京都の体制を構築することが重要です。府社協としては、こうした連携を強化することによって、誰もが夢と希望を持てる地域共生社会の実現に向けた歩みを一層確実なものにしていきたいと考えております。今年も引き続きの御協力、御支援をお願い申し上げます。

少し話が変わりますが、この新年の挨拶を書きながら、一年前の経済四団体の賀詞交歓会で令和4年を漢字で表すと何になるかと聞かれて「春」という字を書いたのを思い出しました。コロナ感染も少しずつ収まり、コロナ禍の冬が終わり「春」が来るのではないか、その様な年にしていかねばならないとの思いを

「あたたかい京都づくり」へ邁進

京都府知事 西脇 隆俊



あけましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルスとの闘いも3年になろうとしています。長きにわたり感染防止対策に取り組んでいただいている皆さま、そして、医療従事者をはじめ関係の皆さまに、心から感謝と敬意を表します。

昨年は新型コロナウイルスに加え、ロシアによるウクライナ侵攻や世界的な物価高、さらに記録的な円安などに見舞われ、今も社会生活への甚大な影響が続いています。こうした情勢の中でも安心して豊かに暮らし、将来に向かって夢を抱くことができるよう、「あたたかい京都づくり」を進めていくことを決意し、総合計画を1年前倒しして改定しました。同計画に基づく施策を令和5年度当初予算に盛り込みます。



「時が物事を変えると人は言うが、実際は自分で変えねばならない」They always say that time changes things, but you actually have to change them yourself。これは米

国の芸術家アンディ・ウォーホルの言葉です。今年3月、いよいよ文化庁が京都で業務を開始し、明治維新以来初の中央省庁移転が実現することとなりました。彼が言うように、この歴史的な出来事が私たちに何をもたらすかはなく、私たちがこの機会をどう活かしていくかが問われます。「文化の都・京都」の実現に向け、国と地方が連携

して日本各地の文化に光を当て、世界へ発信し、ここ京都から新たな文化の潮流を起こしたいと考えています。

この他、「社会で子どもを育てる京都」の実現に向け、子育て環境日本一の取り組みを進化させてまいります。また、京都の強みである大学の「知」と学生の「力」を積極的に地域や企業に取り入れ、京都の活力を生み出してまいります。そして新名神高速道路開通や、大阪・関西万博開催などの好機を活かし、京都の発展に取り組んでまいります。

今年はい卯年です。その愛らしい姿と温厚な性質で「家内安全」を、跳躍する姿で「飛躍」を象徴するウサギの年にふさわしく、皆さまと共に「あたたかい京都づくり」へ邁進してまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

令和4年度 人権擁護啓発ポスターコンクール

京都府社会福祉協議会会長賞が決定しました！

基本的人権について一層理解を深め、人権尊重の精神を養う機会とするため昭和59年度から人権擁護啓発ポスターコンクールが実施されています。今年度は163校4,027点の応募があり、京都府社会福祉協議会会長賞として、与謝野町立山田小学校 牛田旺汰さんの作品が選ばれました。作品は人権情報ポータルサイト「京都人権ナビ」でご覧になることができます。

<https://kyoto-jinken.net/>



込めたものでした。しかしながらその2か月後にロシアのウクライナ侵攻が始まり、戦争、経済制裁、エネルギー危機、インフレと想像もしなかった厳しい一年になってしまいました。今年はい卯の年、寒気が緩み萌芽を促す年だそうです。今年こそ新芽が萌える「春」の年になる事を祈るとともに、一人でも多くの人に希望溢れる「春」が訪れるよう、社会福祉活動の輪を一層広げていかねばならないと決意しております。

皆さまにとって今年が素晴らしい飛躍の年となりますことをお祈りし、新年の御挨拶いたします。

府民の暮らしを支え、 あたたかい地域をつくる

コロナ禍における府民の暮らしと社会福祉活動等実態調査結果から

【はじめに】

新型コロナウイルス感染症の感染が急速に広がり、緊急事態宣言等が出され、経済活動の制限や学校の休校が相次ぐなど社会経済活動に様々な影響を及ぼしました。失業や休業等による生活困窮や格差の拡大、社会福祉施設の休止や地域交流の制限などによる孤立・孤独等様々な課題が顕在化しました。とりわけ社会的弱者といわれる障害者、高齢者、ひとり親家庭、非正規労働者等が大きな影響を受けたといわれています。

また、地域における交流や支え合い活動が大きく制約を受け、障害者や高齢者を守る些である社会福祉法人・福祉施設を取り巻く環境も、最近の物価高騰も相まって一層厳しくなっています。

このような中、京都府社会福祉協議会においては、ポストコロナ社会における地域共生社会の実現に向けた地域福祉事業を展開するために、コロナ禍における府民の暮らしや行

動の実態、地域交流や活動の状況、社会福祉法人・福祉施設の運営や経営状況について、会員を対象に府内の各市町村社会福祉協議会、社会福祉法人・社会福祉施設や京都府民生児童委員協議会の協力を得て、令和4年7月から8月にかけて実態調査を実施しました。

厳しい現実が浮き彫りになりましたが、このような課題に对应していくのが社会福祉活動であり、保育・介護の職場で働く福祉施設の職員はエッセンシャルワーカーとしての評価を得ました。また、コロナ禍においても工夫を凝らして活動が続けられていたり、新たな取り組みがスタートしていることもわかりました。

アンケートには、「コロナと共存しながら、笑顔を見守るためにアイデアを取り入れ、新たな事業計画を活発に進めていきたい。」

「高齢者を孤立させないために、対面での

見守り活動を頻回に取り組む。」

「利用者を始め地域の方々に社会福祉法人としての地域貢献を果たしていきたい。」

「コロナ禍で日常生活が困難な状況となっている人に、適切な支援を実施する。」

「コロナ禍で途切れてしまった人と人、人と地域との関係性に着目し、支援を行う。」などの言葉もみられました。

京都府社会福祉協議会においては、本調査の結果を踏まえながら、単にコロナ前に戻るのではなく、コロナ禍において進んだDX化の取組みを一層推進するなど、この間に得た経験や知見、皆さんとの協働を活かして未来志向で誰一人取り残さない地域共生社会の実現に向けて取り組んでまいります。

【調査の概要】

調査の対象	本会会員団体482法人・団体
有効回答数	190法人・団体（有効回答率39・4％）

【府民の暮らしと生活課題】

社会福祉法人・福祉施設に行った調査では、コロナ禍によって深刻となった施設利用者や家族の生活課題について、回答のあった71・5％の法人・団体が当事業者・利用者・家族の「生活不安・ストレス」を認識していました。次に、「健康」が60・0％、「就労」が

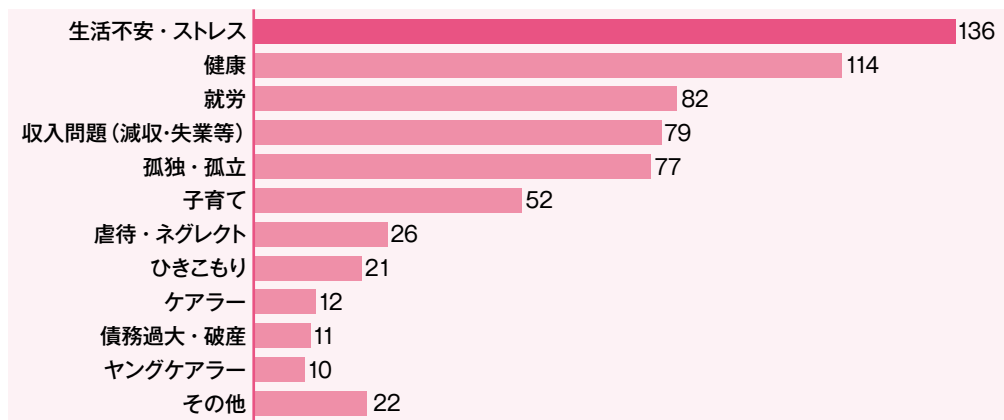


図1. コロナ禍で深刻になった生活課題（複数回答、n=190）

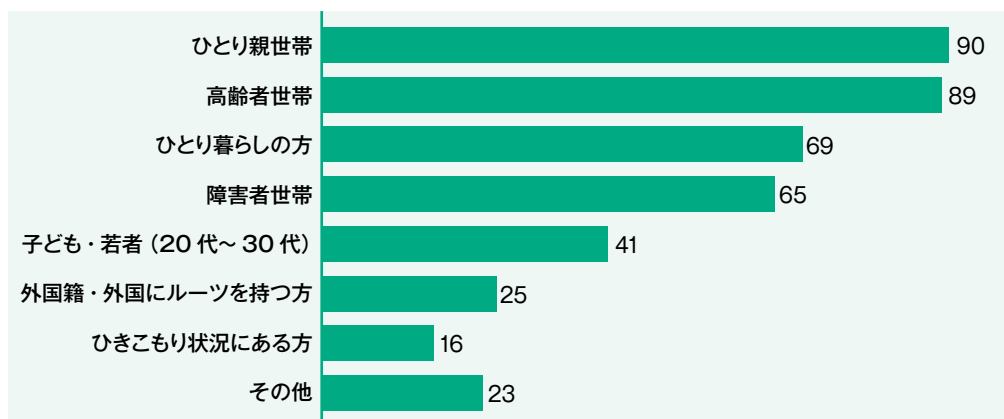


図2. コロナ禍で生活課題が顕在化した住民層（複数回答）

す。その他、分野横断的な対象である「子ども・若者（20代～30代）」、「外国籍・外国にルーツを持つ方」、「ひきこもり状況にある方」などとなっています。（図2）

民生児童委員協議会（以下、「民児協」とする）へのアンケート結果では、生活課題が顕在化された住民層は、「高齢者世帯」という回答が最も多く、「ひとり暮らしの方」、「障害者世帯」、「ひとり親世帯」、「子ども・若者」、「ひきこもり状況にある方」となっており、生活課題については、「生活不安・ストレス」が最も多く、「健康」、「ひきこもり」、「子育て」、「虐待・ネグレクト」、「ヤングケアラー」と、同じような傾向となっています。コロナ禍の前から生活困窮の虞れのあった世帯や厳しい生活環境のもと暮らしていた方が多くおられたが、コロナ禍でその課題が複雑化・顕在化したと考えられます。

【地域の取り組みの現状と課題】

市町村社会福祉協議会へのアンケート結果からは、コロナ禍を経て取り組むべき地域の課題として、「地域社会との接点、交流機会の減少」が最も多く、「身体機能、認知機能、意欲の低下」、「地域活動者への支援」、「個人・家族の孤立・孤独」等が多くなっており、コロナ禍がもたらした行動制限の

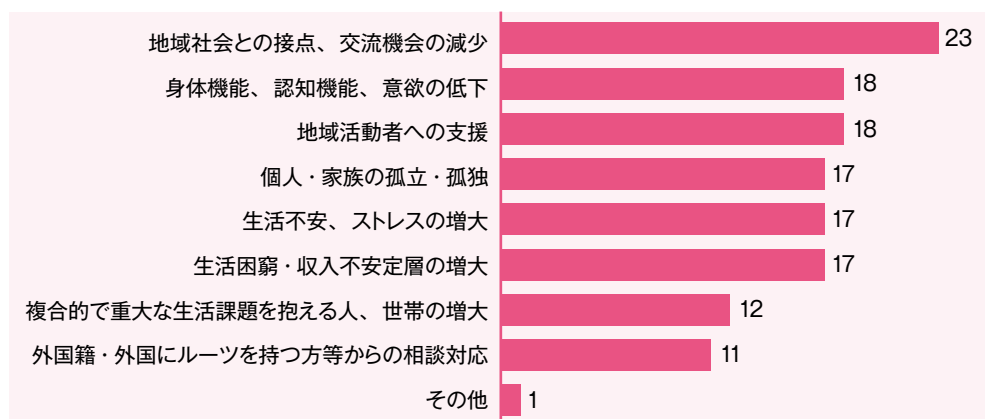


図3. コロナ禍を経て社協として取り組むべき地域の課題（複数回答、n=26）

影響が大きくなっていることがわかります。その他では、「外国籍・外国にルーツを持つ方等従来関わりになかった方からの相談への対応」が多くなっています。（図3）

民児協の活動の中で把握した住民の思いを自由記述形式で聞いた結果を見ると、「人と話したいという思いが強く、訪問をした際に長時間話されるこ

とも多い」という声や、「訪問してきたこと自体が嬉しく励みになった」という声を聞くという回答がありました。

これまで、不安を抱えながらも、地域のつながりの中で生活を維持されてきた方が、コロナ禍でつながることができない状況に陥ったことで、生活に対する不安が増大したことが想像できます。「運動機能の低下・認知症の進み方が早い」という回答もありました。「人と話したい」、「訪問自体が励みになった」という声からも、いかに人と人がつながっていることや、会話をすることが大切な日常行為であることがわかります。

しかし、交流会等に参加したくても、「持病がありコロナ感染が心配であることから参加を敬遠されている」という回答からもわかるように、感染への恐怖から参加ができない方が多かったこともみてとれます。つながりの重要性和とコロナ禍でつながることの難しさが明らかにになりました。

【厳しさを増した社会福祉法人・福祉施設等の事業運営】

社会福祉法人・福祉施設が、コロナ禍において公的福祉サービスを実施する中で生じた課題をみると、職員が新型コロナウイルス感染症に感染した法人・団体は81%に及び、施設における

話になることや、訪問したこと自体が喜んでもらえたという回答を得ています。

市町村社会福祉協議会においては、感染対策を学び合いながらの活動の継続や屋外でのサロン活動の実施、自宅で行えるフレイル予防体操の提供、食事の宅配による提供、電話・手紙・S

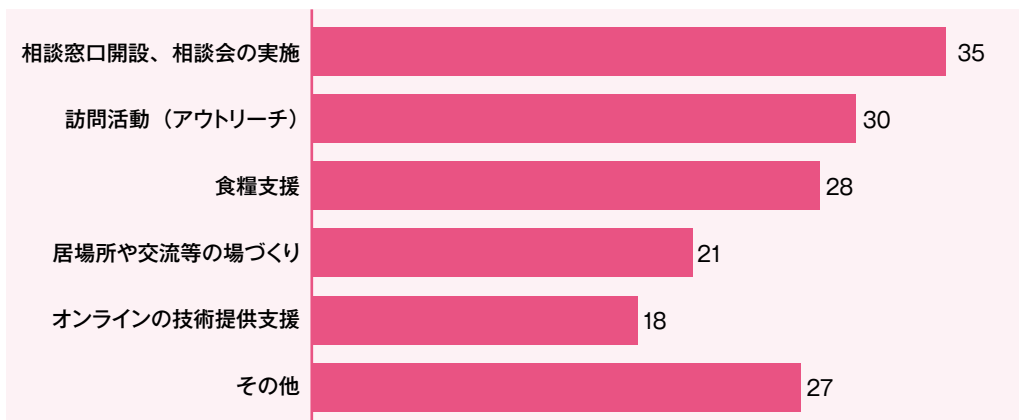


図6. 当事者（利用者）や家族支援のために実施した事業・活動（複数回答、n=190）

クラスター発生率も約30%になっている。

感染対策への職員の負担状況についての質問では96・2%の施設・団体が「負担を感じた」と回答し、うち半数が「強い身体的・精神的負担があった」と回答しています。

負担の内容は、「コロナ感染リスク」（92・1%）、「勤務シフト及び業務内容の変動」（69・4%）、「長時間勤務・業務加重」（52・6%）、「子育て・介護による出勤自粛」（50・5%）の順に多く、社会福祉施設で働く役職員が、感染リスクと感染に伴うストレスの負担を引き受けたことが推察されます。（図4）

このように、コロナ禍という初めての経験において、感染のリスクや感染に伴う負担・制約の中で、職員の努力により何とか事業が継続されたことがわかります。

一方で、「コロナ感染により出勤できない職員が増え、体制維持が困難であった」、「子どものいる職員が子どもを預けられず、休ませざるを得ない」という声も多く聞かれ、出勤できない職員が多くなったため、マンパワー不足から業務体制を維持できない福祉施設もありました。実施する事業や行事が制限され、施設内での交流やコミュニケーションの機会は減少し、入所施設では家族の面会も制限されました。地域に施設を開放して実施していた行

NSの活用による連絡、つながるための高齢者向けのSNS教室の開催、また車に乗れない人のための買い物バスの運行など様々な工夫を凝らしてつながりや見守りを絶やさない取り組みを行うところが多くなりました。

その中で、ポストコロナを見据えた新たな課題に対する目標・挑戦として聞いたところ、「地域の住民とともに活動を進める」という姿勢を確認することができました。具体的には、これまで社会福祉協議会が大切にしてきた住民主体の考え方を基盤に、「生活課題を抱える方への支援と支援団体との連携」や「福祉教育の充実」、「地域福祉活動や人と人との交流、つながりの再構築」にしっかりと取り組み、地域における生活課題を、住民・関係団体と把握・共有し、協議体として課題解決の方策を模索することが掲げられています。また、生活福祉資金における新型コロナウイルス特例貸付等をとおりして、これまで接点の少なかった外国籍・外国にルーツを持つ方への相談・対応等広がりも見られます。（図3）

社会福祉法人・福祉施設においては、「相談窓口開設や相談会の実施」が最も多く、「アウトリーチ型の訪問活動」、「食糧支援」、「居場所や交流等の場づくり」が続く、「オンラインの技術提供支援」を行った施設も多くありました。その他の中には利用者や家族支援のために、「利用者に対するワクチン

事等も実施できず、外部との交流も減りました。交流の機会の減少により利用者処遇が低下し、生活意欲、心身の機能低下、認知症の進行などの影響を

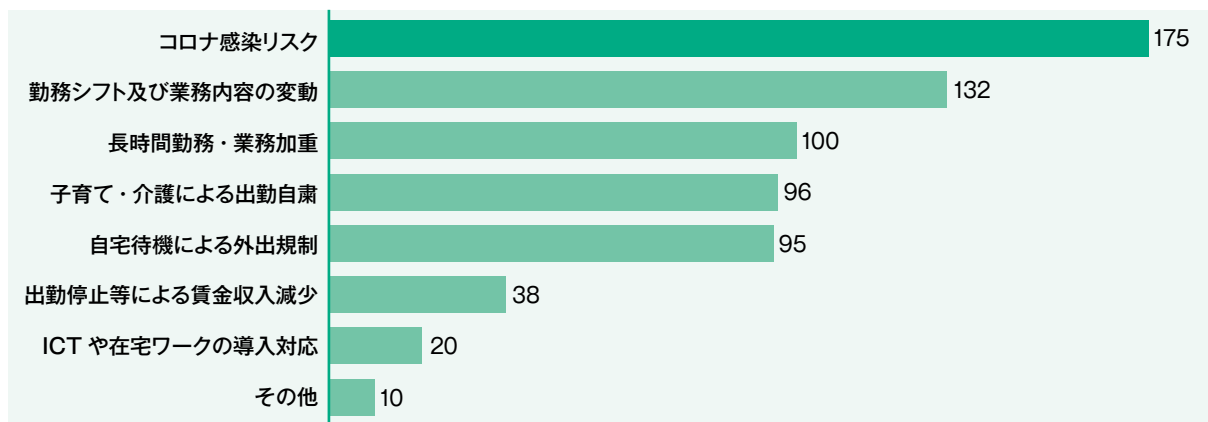


図4. 「負担があった」とされる職員の負担内容（複数回答、n=190）

接種」などがありました。（図6）

また、保護者が学び、交流できる場の提供による子育て支援、公的な場所が閉鎖された際に地域住民が集える場所の提供を行うなど地域貢献事業を行った福祉施設が多くなりました。

そして、これらの取り組みを実施する中で、「保護者と利用者がつながることにより、互いに安心感を得た」、「社会福祉施設の枠を超えて課題を抱える方との接点を持つことができた」、「交流や相談の場づくりの重要性が再確認できた」、「地域で孤立しがちな子育て中の親子の交流の場を持つことで、息抜き場の場を提供することができた」、「相談の場を設けることでニーズの把握ができ、関係機関に繋ぐことができた」などの成果も上がっています。

【生活課題に向きあい、あたたかい地域をつくる】

長期化する新型コロナウイルス感染症の拡大は、府民の暮らしに様々な影響をもたらしました。なかでも要配慮者の課題はより深刻になったことがわかりました。また、府民の暮らしを支える社会インフラである社会福祉法人や福祉関係団体等は、事業を継続実施することの困難さに直面しました。地域で活動を行う民生児童委員やボランティア団体等は、要配慮者となつながらこと自体が難しい状況も続きました。

危惧される声も多く聞かれました。

さらに、行政からの財政支援はあったものの、PCR検査の実施やマスク等衛生資材の確保、感染防止対策等の業務や経費の増加、事業所の休止やサービスなど利用自粛などによる収入の減少など、経営を大きく圧迫することになり、55・2%の社会福祉法人・福祉施設が「収支状況が悪化した」と回答しています。（図5）

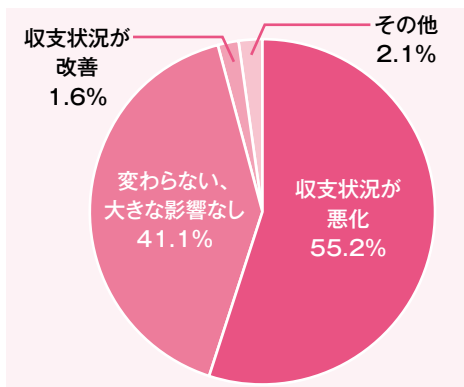


図5. コロナ禍の経営収支への影響（択一式、n=190）

【コロナ禍でも実施された事業・活動】

コロナ禍においても実施された事業・活動についてみると、民児協からは、回数は減少したもののできる限り工夫を凝らして訪問活動や居場所交流の場づくりを可能な範囲で継続的に実施した。訪問した際には、長時間の会

本調査では、そのような中でも多くの福祉関係者が、訪問活動や相談活動をとおりして生活に関する不安をやわらげ、地域の生活課題を発見する姿や、求められる取り組みや活動を行ってきたことを確認してきました。

ICTや在宅ワークの導入に関する設問では、対人援助・相談援助業務における導入は難しいという回答が多くある一方で、会議や研修、法人運営業務にICTを活用・導入することで対人援助・相談援助業務を充実させることができるという回答が多くありました。まずは、生活課題を抱える方に向き合うこと、つながること、つながり続けることで、その背景にある地域ごとの課題が見えてきます。

夢と希望を持って安心して暮らすことのできるあたたかい地域をつくるためには、地域における生活課題を把握し、福祉の理解を広げ、多くの住民のみなさんの参加による活動を進めていくことが欠かせません。

京都府社会福祉協議会としても、市町村社会福祉協議会、民生児童委員、社会福祉法人・福祉施設、福祉関係団体と連携を強化し把握した地域の生活課題を府民のみなさんと共有し、ともに考え、ともに行動して、だれもが尊厳をもつていきることができる社会の実現にむけた取り組みを推進していきます。

注目のお仕事

サービスの質の向上を目指して、

介護助手が奮闘中！

京都府福祉人材・研修センターでは、今年度「介護助手等普及推進員」を設置し、介護助手等希望者の募集や受入事業所の開拓に取り組んでいます。

介護助手として働く人の声

新たな働き手「介護助手」とは？

介護助手は、高齢者や障害者などの施設等で介護職員等のサポートを行う職員であり、「介護サポーター」「介護補助者」などと呼ばれる場合もあります。

特徴としては、介護福祉士などの専門的な資格を持っていなくても働くことができる点などが挙げられます。各施設に合った形で介護業務をサポートする業務となるため、内容は多岐にわたります。例えば、入浴時の衣類の整理や、浴室清掃、その他にも、デイサービスでの送迎における運転手や、レクリエーションの企画や進行を担ってものも含まれます。

近年では、地域に住む元気な高齢者などに向けて、短時間であっても施設や利用者にとって必要とされる業務を



介護老人保健施設
ハーモニーこがで
働いています！



社会福祉法人
くらしのハーモニー
富田 万里子さん

社会に貢献できることが喜びです

現在は、週3〜4日、10時〜15時までシフト交換や洗濯物の仕分け、食事の後片付け等を行っています。若い職員とも気軽に話すことができ、わからないこともすぐに聞けるので、楽しく働いています。

入所者の方への直接的な介助はしていませんが、手を振ったり、挨拶することでコミュニケーションを取っており、それが励みになっています。

私は子どもの頃から介護の仕事に興味がありました。この施設の職員募集のチラシを見て、「私にもできるかもしれない」と思い申し込みました。自分にできることで社会に貢献しながら働くことに喜びを感じています。

シーツ交換



洗濯物の仕分け



ハーモニーこがでの働き方

10時〜15時
シーツ交換、下膳、掃除

16時〜19時
浴室清掃、夕食準備、後片付け

導入した法人から

「施設と地域の方がつながることで、」
「ともに “ 支え合う社会を実現したい ”

◎介護助手（以下、介護サポーター職）導入のきっかけを教えてください。

職員の退職が続き、業務を見直す中で、直接的ケアと間接的ケアの切り分けを行いました。間接的ケアの担い手として介護サポーター職の導入を考えました。

令和元年度、京都府の「介護職機能分化等推進事業」のモデル事業として、利用者とその家族の日常生活を支えていくことを手伝っていただける方を募集し、社会の役に立ちたい思いを持つシニアの方々を採用し、近所に住む60歳以上の女性5名に働いていただいています。当法人の理念である「ともに生き、ともに学び、ともに支えあう」ためにも、地域の元気な高齢者が社会福祉施設で「働く」



ことで、地域社会とのつながりを作り、「ともに」支え合う社会の実現につなげたいという考えがありました。

◎導入して良かったことは？

業務を切り分けたことで、介護職員等はケアの業務に専念することができるようになり、実際に残業も減りました。負担が軽減されたことについても「サポーターさん無しでの業務は考えられない」という介護職員等の言葉に現れていると思います。シフト交換については、今では管理も含めて、業務を任せられるようになりました。また、介護サポーターの職員は、挨拶や礼儀作法など見習うべき点も多くあります。

◎長く働いてもらうポイントは？

働き始めてから「思っていた仕事と違う」とならないように、採用前に実際の業務を試してもらい、体力的に問題がないかを確認しています。また、定期的に、介護サポーター職、フロア責任者、看護師、介護部長による「介護サポーター職ミートング」を実施し、情報共有や意見交換をしています。

◎苦労された点を教えてください。

介護職員等からは賃金体系への疑問、



社会福祉法人
くらしのハーモニー
介護部長
森 康孝さん

仕事のスピード感が異なる点について戸惑いの声がありました。良好な人間関係を維持するためには、介護サポーター職を導入する目的と業務内容を他の職員がしっかりと理解する必要があります。そのため、会議等で「介護業務を切り分けることで、介護職が専門的業務に従事できるようにすることや、業務負担の軽減、介護の質の向上につながることを」を繰り返し説明しました。

◎介護サポーター職を受け入れる上で、大切にされていることはありますか？

例えば、入所者との会話や見守りの中には、専門的なケアが必要と思われる場面もあります。そのような場合は、介護サポーター職に任せず、介護職員等が対応しなくてはならないと考えています。また、施設は、介護職員等がその人に必要な介護を見極めて、「介護サポーター職にお願いすること」「専門職が対応すべきこと」を判断し、専門職としての対応力を高められるように支援する必要があります。今後も、法人理念を大切にしながら、介護サポーター職の活躍はもとより、誰もが働きやすい職場になるよう取り組みを進めていきたいと考えています。

介護助手等普及推進員の役割



まずは お問合せを！

センターでは推進員が介護助手の求人・求職について丁寧にサポートを行っていますので、ぜひお気軽にご相談ください。

お問合せ先

075-252-6297（平日9時〜17時）
社会福祉法人 京都府社会福祉協議会
京都府福祉人材・研修センター



問題をみんなで
共有して、
楽しく働ける
つながりづくりを



(福) 世光福祉会 ベテスダの家
社会福祉士

やす だ たま こ
● 安田 珠子さん

◆この職場を選んだ決め手は？

元々グループホームを希望していました。その中で、1対1で利用者の方に合わせた支援ができることに魅力を感じました。

◆職場のいいところ

職員間の雰囲気がとても良い！同期とも仲が良く、考え方も似ているので、一緒に悩んで、共感できる関係性が心地良いです。

◆休日の過ごし方

山登りにどっぷりハマっています。少なくとも月に1ヶ所は山に登って、心身ともにリフレッシュしています。

【施設名】(福) 世光福祉会 ベテスダの家
【場所】京都府京都市伏見区向島津田町 182-1
【URL】<https://bethesda.jp>
【TEL & FAX】075-602-1724

「小学生の時、祖父が長期間入院していました。祖母に付き添ってお見舞いに行つて身の回りのお手伝いをしてるうちに、『楽しいな』と幼いながらも漠然と思っていた記憶が残っています」と話す安田珠子さん。

その思いは消えることなく、大学で福祉を学び社会福祉士の資格を取得。世光福祉会に就職して4年目を迎えた今、ケアホーム「ベテスダの家」に勤務し、利用者の入浴や食事など、身の回りの介助をしています。

「家は誰しもが心安らげる場所です。だからこそ、ケアホームでもリラックスして過ごしていただけるよう、利用者の方に合った生活ができるような支援を心がけています」

支援をしていく上で、どうしても同じ業務の繰り返しが多くなってしまうと言います。それでも、利用者の方をモニタリングし、アセスメントする事例検討会を行い、利用者の今後の支援の選択肢が出てきたり、道筋が見えたりする新たな発見があると、新鮮な気持ちになり、やりがいを感じているそうです。

「これまで働いてきて、周囲の人にすごく恵まれていると思っています。これからのちよつとした社会問題でもみんなで共有して、楽しく働けるつながりづくりをしていきたいですね」



令和4年度府民交流フェスタが昨年11月3日に京都府立植物園で開催され、1万2,000人の参加者で賑わいました。

このフェスタは、きょうと地域創生府民会議が地域創生（文化創生）の一環として毎年開催しているもので、京都の未来を担う子どもや若者に時間を忘れて夢中になれる空間を提供する取り組みです。

京都府社協も府民会議の構成団体として「子どもの笑顔が福祉の世界を広げていく」をテーマに出展し、本会の取り組みを紹介するパネル展示のほか、缶バッジ作成や福祉リボン活動と同色のサイリウムブレスレットの配布を行い、約800人の親子連れの方々に楽しみながら福祉を身近に感じていただく機会となりました。

京都府社協では第5次中期計画において「多様な価値観への共感が広がり、思いやりを大切にする福祉のまちをつくる」ことを役割の一つにしています。これからの府民フェスタや地域イベント等を通して、府民の皆様が福祉にふれる機会をつくり、思いやりの輪を広げていきます。



TOPICS①

府民フェスタで
思いやりの輪を広める

TOPICS②

学生によるSDGsの取り組み
もつたない食品を
思いやりの食品へ



昨秋、池坊短期大学ではSDGsの取り組みの一環として、医療クラークコース2年次生を中心にフードドライブが実施されました。11月12日に開催された大学祭において、学生達はフードドライブのブースを設置し、全学生・保護者・教職員に家庭にある食料品や日用品の回収を呼びかけ、56品種240品の善意の寄付が集まりました。

11月15日に池坊学園から池坊理事長、池坊短期大学から桶谷学長、伊東教授、京都府社協から小畑会長、中井常務が出席し、寄贈式が開催され学生から食料品等がきょうとフードセンターに寄贈されました。学生からは、「環境問題に加えて福祉課題についても身近に考える機会になった」「社会人になる前にこの体験ができて良かった」「今後でもできることを続けたい」などと気づきや感想の声を聴くことができました。

寄贈品は、きょうとフードセンターから子ども食堂や児童福祉施設に贈られ、食料品や文房具などを受け取った子ども達からは、たくさんの「ありがとう」の声が届き、もつたない食品は思いやりの食品となつて多くの子ども達の笑顔を生み出しました。

京都府社協が設置するきょうとフードセンターは、全ての子ども達が将来に夢と希望を持ち成長できる地域共生社会の実現に向けて、食を通して子ども達の居場所づくりを支援しています。今回、大学生からの食品の寄贈は初めてで、これを契機に活動が一層広がることを期待し、関係機関・団体の皆様と連携を大切に取り組んでまいります。

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

ご寄贈・ご寄付・助成金ありがとうございました。
ご芳志の趣旨に沿い活用させていただきます。

寄贈

『アフラック京都府アソシエイツ会』様より、本会へ自走式車いすをご寄贈いただきました。
ご芳志の趣旨に沿い、本会会員の高齢者施設に希望を募ったところ、約 40 法人から応募があり、厳正な抽選の結果、施設へ配布し活用させていただくことになりました。
令和 4 年 11 月 『アフラック京都府アソシエイツ会』様 車いす 2 台

寄付

令和 4 年 11 月 『一般財団法人 近畿陸運協会』様 250,000 円
『株式会社 キリック』様 100,000 円
『小畑 英明』様 30,000 円
『中井 敏宏』様 10,000 円

助成金

令和 4 年 11 月 『公益財団法人 京遊連社会福祉基金』様より、助成金 500,000 円をいただきました。
京都府内のボランティア活動へ助成させていただきました。



FUKUSHI就職フェア KYOTO

福祉の仕事 合同就職説明会を実施します。
京都府内全域対象 (110 法人が出展 [予定])

予約不要・入場無料

随時入退場可・服装自由

5ブース訪問で
QUO カード
500 円分
プレゼント!
(先着100名様)

日程 **3月5日(日)** 時間 **13:00~16:30**

会場 **みやこめっせ(京都市勧業館)**
(市営地下鉄「東山」徒歩約8分/市バス 5 系統「岡崎公園・美術館・平安神宮前」下車)

対象 学生 (2024 年卒業予定者等)
一般求職者 (未経験者も大歓迎)

※新型コロナウイルス感染症への予防対策を実施します。ご理解・ご協力をお願いします。
体温測定、マスク着用、手指消毒、社会的距離の確保、ブースでのパーティション設置

問合せ先 **福祉人材課(京都府福祉人材・研修センター)**
TEL: 075-252-6297
<https://fukujob.kyoshakyo.or.jp/>



京都府保育園 就職説明会

京都府内全域の保育園・認定こども園が参加されます。
保育の仕事に関心のある学生の方はもちろん、一般の方も大歓迎! 履歴書は不要、服装も自由!
是非、ご参加ください!

日程 **3月12日(日)**

時間 **13:00~16:00**
(受付 12:45 ~)

会場 **京都産業会館 2階「中南室」**
(市営地下鉄「四条」・阪急「烏丸」から徒歩3分)

対象者 保育園・認定こども園に就職を
希望する一般・学生等の方

出展 約 40 法人 (予定)

参加方法 ① **会場で実際に法人に会う**
[予約不要] 直接お越しください
② **オンラインで参加する**
[要事前予約] **※切2月20日(月)**
公式サイトからお申し込みください→



問合せ先 **京都府保育人材マッチング支援センター**
TEL: 075-252-6333
<https://fukujob.kyoshakyo.or.jp/hoiku/>

●本会へのご意見等は、下記 URL の「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。
<https://www.kyoshakyo.or.jp>



本紙は、共同募金の配分金によつてつくられています。
© 中央共同募金会

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です!

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせでご加入いただけます。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険
ホームページ <https://srm.moushikomi.jp/>

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

仮1-10-1111

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催されるときには「福祉行事保険」も併せてご利用ください。